

2019年3月5日

＜第18回フォローアップ会議＞
ブラックロック社ラリー・フィンク CEO の手紙を踏まえた
今後の「フォローアップ会議」運営に関する意見

小林 喜光

- 上場企業は自社従業員の退職後の生活を年金によってサポートするだけでなく、公開された株式市場において、NISA・iDeCoを活用する個人や、国内外の年金基金などの株主に対して、企業価値の向上を通じて（端的には株主総利回り（TSR）の形で）報いることにより、広く市民全般の退職後の生活を経済的に下支えしている。
- このことが顕著に示すように、上場企業は生得的に「社会の公器」として存在すべきエンティティであり、そのことを明確に自覚できない上場企業（経営者）、資本コストを上回る業績を達成し得ない上場企業（経営者）は、極論すれば、非倫理的・反市場的な何者かに過ぎず、原則として市場を退出すべきである。
- 日本のコーポレートガバナンス改革をめぐる「形式から実質へ」というスローガン自体もともすれば形式化しがちな中、「フォローアップ会議」はこのような原理を幅広く積極的に啓発し、併せて、東証一部を凌駕する「プレミアム市場」の議論を急速に深めてゆく硬軟両様の方策で、一層の改革推進力を獲得すべきではないか。

以上